

おい図書館

No. 124

発行 おい図書館
代表 青木和子
松戸市牧の原イ104-416
TEL 047-311-0886

千葉県内図書館関係団体連絡会 第四回交流会に参加して

西山怜子

「6月17日(日)に、市川市立図書館にて行われました。地域の現況報告と親睦をかねた会です。参加している方々は、図書館を愛し、図書館の充実に積極的に参加したいという人々でした。」

地域の現況となると、当然の事ながら地域の図書館の内容により、異なります。今回の当番である市川の「友の会」では、立派な組織化のもとに、各人が各委員会に属し、嬉々として誇りをもって、ホ

ランタイプとして図書館を支えていらっしやるのがわかります。私達松戸市の場合、現在の図書館本館は狭いし、今のまゝではどうしようもないのが現況です。しかし予定された図書館建設候補地が撤回され、その後図書館建設は頓挫している状況です。柏市の方の報告も同じ様な報告だったと思います。

浦安市や市川市などの方々の現況報告を聞いて羨ましく、情なく思いました。

やはり今回も指定管理者制度導入の件が問題になりました。経費節減のため図書館本来の意義が失われる事は許されません。①松戸市も図書館の意義を認

識し、立派な図書館が出来れば、より進んだ街になるでしょう。「自殺したくなつたら図書館へ」と言われるぐらい魅力ある図書館もある様です。フィンランドの学力世界一は、図書館の充実にあると言われています。行政・議会・市民が松戸市において、良い図書館建設を重要な行政目的とする段階に来ていると考えます。

②しかし図書館建設は短絡的に行えません。準備委員会など設立し、検討する手順が必要でしょう。松戸市には、日本の図書館を代表する人も住んでいます。経済的にも準備金の積立なども考えてもよいのではないのでしょうか。

③それにしても、千葉県内の各市の人口一人あたりの図書館費の平均は220円であるのに、松戸市は124円で最下位に近い現状です。ちなみに浦安市は640円です。格差が大きいです。(平成17年度)

本を楽しむおしゃべり会



報告 青木和子

8月4日(土)、守谷市立中央図書館で開催されました。テーマは「私の好きな子どもの本」でした。

最近読んだものでも、子ども頃読んだ本でもOK。自分が「子どもの本」だと思っているものの中から好きな本を1〜3冊持って来て下さい、とのことでした。参加者は守谷から4名、松戸から2名。守谷の方達は、現在学校図書館の嘱託職員など、子どもと本に関わっておられます。松戸から参加した私達は、自分の子どもが小さい頃に文庫活動などで読み聞かせをした経験はあるものの、今は関わっていません。

ブックトークと言えるのでしようか。それだけが持ち寄った本の

紹介をし、そこから話題は広がって行き、予定の2時間はあっという間に過ぎてしまいました。

その中でもとても驚き、面白いと思った事があります。私達より10歳程下の年代と思われる守谷の方達が紹介した本の殆どを、私達は知らない、または題名は知っていても読んだことがないのです。一方、私達が紹介した本を、彼女達は読んだことがないというのです。

長い間読み継がれ、図書館の書架には必ず置かれている本であつても、子どもと本に関わっていない方達にも意外と読まれていないことを知り、感慨深いものがありました。

私達も、その時々々にテーマを決めて、このように楽しい「本を囲むおしゃべり会」をしてみたいと思いました。守谷の皆様ありがとうございました。



紹介された本

- ・上橋菜穂子「精霊の守り人」
- ・天と地の守り人
- ・M・W・ターナー「盗神I」
- ・クリス・ラシュカ「やあともだち! (HEYO YESS!)」
- ・宮西たつや「ずっとずっとあいてる」
- ・「きみはほんとうにすてきだね」
- ・竹下文子「わたし おてつだいなこ」
- ・いとくひろし「だいじょくぶだ いじょうぶ」
- ・「おさるがおよくし」
- ・エミリー・ロンダ「ローワンと黄金の谷の謎」
- ・(以上、守谷)
- ・ジョン・バーニンガム「いつもちこくのおとこのヒーローン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー」
- ・アストリッド・リンダグレン「やがまし村の春夏秋冬」
- ・(以上、松戸)

「としよかん」103号より

図書館計画施設研究所菅原峻さんが長年刊行しておられた「としよかん」が装いを新たに「としよかん文庫・友の会」発行となってから、3号を数えます。ここでは、2007年7月1日発行の103号に掲載された、草谷桂子さん（トモエ文庫静岡市の図書館をよくする会）の記事を紹介します。

絵本の中の図書館

「絵本には、生きるために大切なことが、最もシンプルながら形で凝縮されています。図書館は過去や現在の歴史や文化、その他あらゆる問題をすべてを網羅して蓄積・提供していきませんが、絵本からも過去や現在のあらゆる問題が見えてきます。「時代」や「立つ場所」の

ありようを示す鏡でもあります。…(略)…100年の差があると言われている欧米と日本の図書館の比較、時代による変化、司書の描かれ方、図書館の様々な形と市民との関わり方など、さまざまに切り口から眺めると、あらためて図書館の役割の深さと魅力に気づかされます。」と草谷さんは書いておられます。

☆司書の魅力

今回は「司書の魅力」と「図書館の中のライオン」にテーマを絞って絵本を紹介しました。

・バスの図書館員…イラクで本当にあった話…絵と文…ジャネット・ウィンター 訳／長田弘
実話から生まれた本です。(へ
会報NO.119・120にも紹介)
戦争になると、文化の蓄積場所である図書館が真っ先に狙われるといえます。図書館を守る

ことは平和を守ることだと気づかされます。

・おんちゃんには車イス司書…原美河原正美 作・絵／梅田俊作

モデルは実在の司書河原さん。あるがままの自分をさらけ出し、「ひとりしかない自分を大事に」という子どもたちへのエールを、仕事を通して身をもって伝えていきます。

・ハルはあさんのオルガン…作／なるみやまみ 絵／高富純

入口にカウンターはなく、足踏み式の古いオルガンが置いてある音楽専門図書館の館長ハルおはあさんは、本を貸出するだけではなく、歌を歌いオルガンを弾いて、みんなをしあわせな気持ちにしてくれます。100年前に魔法使いが作ったというオルガンを盗みに入った泥棒まで、改心させてしまいます。
・ごめんなさい フォリオさん…作／ジョー・フォルタート 絵／フレデ

リック・ジョー 訳とリズ・エレン
 フォリオさんは、人だけでなく
 金魚やネコもいる、楽しい子ども
 図書館の司書。特別に立派ではな
 いけれど、人間味があつて、本が
 好きノと思わせてくれます。ヤン
 チヤ坊主に振り回されながらも、
 バカンスでストレスを解消して、
 またやさしい笑顔で子どもたちに
 接することができるのです。

☆ 絵本の中のライオン

ニユーヨーク公立図書館の象徴
 ともいえる、入口の2頭のライオ
 ンの大理石像も、絵本の中によく
 登場します。

・ヒラリーとライオン…文/マ
 フ・ディサイクス 絵/デビー・デ
 ムラント・ディサイクス 訳/たかほし
 けいすけ

初めてのニユーヨークで両親と
 はぐれたヒラリーは、図書館のラ
 イオン像の下で眠ってしまいます。

目が覚めると、大理石像は金色
 の生きたライオンに変わつてい
 ました。ヒラリーはライオンに
 またがって、さっそうとニユー
 ヨークの町へと飛び出します。
 ・アンディとライオン…文・絵
 ジェームズ・ドハティ 訳/むらおか
 はなこ

ニユーヨーク公立図書館の2
 頭のライオン、レノックス氏と
 アスター夫人に捧げられた絵本。
 アンディは、学校へ行く途中、
 本物のライオンに出会つてしま
 います。図書館で借りた本を返
 すまでの間の、少年とライオン
 の心躍る交流が描かれています。
 ・まいごのくま みつけた…作
 ノーデービット・マクフェイル 訳/とも
 ふゆひこ

迷子になつたくまを「ぼくら
 が、助け合つてくまの家を探し
 ます。困った時に思いついたの
 が図書館の存在でした。

・としよかんライオン…作/ミシエ
 ル・ヌードセン 絵/ケビン・ホークス
 訳/福本友美子

ある日、大きなライオンが、利
 用者として図書館に入つてしまし
 た。館長のメリウエザーさんは、
 「図書館のきまり」さえ守れば、
 誰でも受け入れてくれます。ライ
 オンはすぐに子どもたちと仲良
 くなり、絵本の部屋がお気に入り
 の場所になりました。そして…

(文責 青木和子)

後記

今回は、たくさんの子どもの本
 の紹介をしました。

私達も、本を困るでの気軽なお
 しやべり会を、遠くはないいつの
 日か開催したいと思つています。
 その折には、どうぞご参加下さい。

